

霧ヶ峰スノーシューハイク山行報告

【山行日】2021年3月7(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 3,700円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL関、安西、石澤、
並木、福島

【コースタイム】岩舟支所 P6:00 = 車山肩
P8:50/9:30 ~ 鬼越山 10:05/10:20 ~ 車山乗越
10:40 ~ 蝶々深山 11:00/11:15 ~ 1792mピーク
11:40/12:10 ~ 蝶々深山 12:40 ~ 分岐 13:00 ~
車山肩 13:40/13:55 = ヘルシーテラス佐久南
15:00/15:15 = 岩舟支所P17:00



今年の雪山は全て天気に恵まれて、素晴らしい景色を楽しみながら歩くことが出来た。今日も良い天気になる予報なので、楽しみにして岩舟支所を出発する。北関東道から上信越道を走り、八風



山トンネルまでは良い天気だったが、トンネルを抜けると天気が一変した。「そんなバカな！関東より上信越の方が良い天気なのに」と思いながら霧ヶ峰に向かった。曇り空でガスが掛かり暗い気持ちで走っていたが、標高が上がると暗い気持ちが一変した。道路両脇の木々が霧氷で真っ白に輝いているではないか！！皆さん「ウワ～～綺麗。この景色を見られただけで満足だねと皆さん笑顔になった。

霧氷を楽しみながら走り、車山肩の駐車場に着く。周りが見えないガスの中で出発の準備をし、

トイレとストレッチを済ませたら出発する、緩やかな斜面を車山山頂に向かって登るが、何も見えないので皆さん何処を歩いているのかさえ分からない。いきなり車山山頂に飛び出て「エ～もう山頂に着いたの？こんなに早く登れるんだ！」とビックリしていた。山頂標識の前で記念写真を撮り、風が当たらない場所に移動して晴れるのを待つ。晴れていれば蓼科山から八ヶ岳、富士山や南・中央・北アルプスの大展望が広がるが何も見えない。くだものや菓子を食べて待ったが、薄く太陽が見えるが晴れることはなかった。しかたなくリフト山頂駅まで下り、ここから車山乗越へ向かう。

夏道はスキー場のゲレンデになっていて通行禁止。

ゲレンデの西側の急斜面をトラバースしながら下って行く。



急な片斜面のトラバースに、「怖くて降りられない」と躊躇している。「体を起こしてスノーシューの歯



を雪面にしっかり打ち付ければ大丈夫」と叱咤激励し、何とか難所をクリアーできた。車山乗越まで下れば緩斜面になり、笑顔で歩けるようになる。真白な雪原を一旦下って緩やかに登り返し、蝶々深山に着く。ここでキーウイフルーツやチョコを食べていると、空が段々明るくなり太陽が顔を見せてくれた。一気に展望が開け霧ヶ峰の全容が見渡せ、車山山頂のレーダードームも姿を現した。これが見たくてこんな遠くの山まで来たのです。後から到着したグループの人たちと一緒に、感動を分

かち合った。霧ヶ峰独特のたおやかな山並みが広がり、雪の中を何処までも歩いて行きたくなる景色だ。この先の物見岩まで足を延ばそうとしたら、後から来たグループは沢渡へ向かうという。我々も後を付いて行き、1792mピークからの展望を楽しんだ。ピークの先からは南斜面で雪が少なく、大きな岩陰でスノーシューを脱いだ。我々はここでランチタイムを取ることにし、岩の上でお湯を沸かしカップ麺やスープとおにぎりを食べる。煮タマゴや分厚いチャーシューも出て、景色を楽しみながら美味しくいただいた。沢渡までは雪が少なそうなので、我々はここから蝶々深山まで往路を戻ることにする。



スノーシューをザックに付け、ツボ足で1792mピークまで戻ると驚いた。空が晴れ渡り南・中央・北



アルプが見渡せ、360度の大大パノラマが広がっていた。皆さん大興奮で「エ～霧ヶ峰ってこんなに素晴らしいの！！」と絶景に見入っていた。1792m峰を下ると、ツボ足では雪を踏み抜いて進まない。しかたなく再びスノーシューを履き、ルンルン気分で蝶々深山まで戻る。風も穏やかになり景色を楽しみながらのんびり歩き、無事に車山肩の駐車場まで戻った。靴に履き替え服を着替えたら車に乗り、帰路につく。朝はガスの中だったビーナスラインも晴れ渡り、絶景を見ながら走れた。あまりに景色

が良いので途中の展望所に車を止め、蓼科山から八ヶ岳連峰の絶景を楽しんだ。

途中、インター手前の道の駅「ヘルシーテラス佐久南」で買い物し、無事岩舟支所に帰着した。